

令和5年度新規就農者育成事業研修成果報告書

研修生氏名： 石口 悠

1 研修動機

元々、実家が農家で祖父母の代まできゅうりや米を栽培していました。子供の頃は、あまり農業という仕事を意識したことがありませんでしたが、体を動かすことが好きなのと、自分の考えで自由にできる農家という仕事はとてもやりがいがある仕事だなど思うようになり、祖父母の後を継ぐつもりでいました。しかし、東日本大震災での原発事故の被害は大きく、農家で食べていくのは厳しいと思い断念しました。最近になり、知り合いで農家を始めた人がおり、色々話を聞く中で普及所の存在を知りました。まだ農業に興味があった私は、普及所や農政課に足を運び、給料をいただきながら研修を受けることができる『農業担い手育成事業』があることを知りました。新しいことへの挑戦への不安はありましたが、始めるなら今だと思い決心し応募しました。

2 研修生となって

(1) きゅうり栽培農家実務研修

研修先の農家さんでは種から栽培しており、育苗管理や接ぎ木作業についても学ぶことができました。管理作業や収穫作業について、初めはスムーズにいきませんでした。農家さんからアドバイスをいただきながら徐々に作業に慣れることができました。収穫の最初は、目で見ただけでは大きさが分からなく、ハサミの長さが20cmなので、悩んだ際にはハサミと比較しながら収穫を行っていました。農家さんの作業スピードの速さには驚きました。自分とは何倍もの速さで進んでいくのを見て、こんなにも差があるのだなと実感しました。摘心、摘葉などの管理作業もそうですが、頭で分かっているのに実作業の慣れというものがあるので、就農前の実務研修はとても大事な経験となりました。

(2) 農業関係機関研修

普及所での『きゅうり基礎力アップ研修会』は、基礎知識がない私にとって勉強になりました。10aあたりの平均的な生産量や、例年の単価の推移の講義を受け、初年度の栽培面積を決める参考となりました。きゅうり栽培の管理や、殺菌剤、殺虫剤

の種類等などの資料も配布いただきました。重要なポイントの再確認や、農薬を一つ一つ調べる手間も省け、栽培の計画を立てる上で便利に活用させていただきました。今後も研修会へ参加し学んでいきたいと思ひます。

(3) 公社業務研修

夏の時期には、梅林公園での草刈り作業を行いました。刈払機での草刈りでしたが、一度も使用したことがなく初めての経験でした。最初は、手に力が入ってしまい少し作業しただけでも腕や手が疲れてしまっていました。日を増すごとに力の入れ具合もだんだんと分かり、作業もスムーズに行えるようになりました。就農してからも刈払機は使用するようになるので、事前に研修ができて良かったです。

冬の時期には、味噌作りの作業を行いました。なかなか体験できない加工品の作業は良い経験になりました。食品加工も一つの手ではあるなど参考になりました。

3 研修を終えて(※研修期間全体を振り返って)

全てが初めての経験で分からないことばかりではありましたが、農家さんや公社の方々にご指導いただき、一つ一つ技術を身につけることができました。まだまだ作物を見る目が未熟ですが、経験を重ねて「今何が必要か」を見極められるよう努めていこうと思ひます。体を使う仕事なのはもちろんですが、どの作業でも腰を使う作業が多かったと思ひます。無理をしがちな性格ですが、無理をすると体を壊してしまうことを学べた1年でもありましたので、こまめな休憩を心掛け、健康にも気を付けていきたいと思ひます。

4 就農展望

まずは露地栽培で安定した収量が取れるように励んでいきたいと思ひます。圃場は昨年まで田んぼであったため、土質や排水性など不安はありますが、堆肥や土壌改良剤など有機物を投入し、年々少しずつ肥えた畑にしていきたいと思ひます。風対策の設置や、灌水設備の作成など、まだまだやることはあります。どのくらいかかるかも分かりませんが、一つ一つ確実にいき、理想の圃場に仕上げていきたいと思ひます。